

1-01-105 高岡定塚町・飴屋文書 74件75点

No.	資料名称	点数	年代	寸法 (縦*横, cm)	備考
1	銀錢借用証文	1	寛延3年 (1750)12月	22.6*19.0	新開発村 彦三郎→定塚 六右衛門。
2	売手形請合書状	1	宝暦12年 (1762)12月5日	23.0*19.2	取次 小野屋 甚右衛門・受人 関町 吉左衛門→あめ屋 六右衛門。 小野屋甚右衛門の取次で売手形の手続きを行った。少しの難題もなく請合したと言っていると思われる。
3	飴屋六右衛門引越につき 送り状 (写)	1	明和8年 (1771)11月	24.2*14.2	源平板屋町 忠右衛門・小左衛門→定塚町町頭衆中。
4	子息角入元服につき手形	1	子正月14日	24.0*15.4	御座宿 都見一→あめ屋 六右衛門。 角入(すみいれ)元服とは、本元服の前の段階の半元服のこと。半元服で額の角の前髪を四角く剃った角前髪(すみまえがみ)という髪型にし、その1~2年後に本元服で月代を剃った。
5	十八貫文手形返却願状	1	子5月	16.6*62.4	継紙(継目が剥がれて2枚になっている)。 定塚町酢屋 七兵衛・米屋 幸助→二上屋 吉助。 石瀬屋武右衛門に渡した十八貫文の手形の経緯が書かれ、その返却を願っている。
6	金子町内預りにつき書状 案 (断簡)	1	子11月	23.4*12.8	前欠のため詳細は不明だが、金子を町内で預かっていたことが分かる。 破れあり。
7	迷惑至極につき書状 (前欠)	1	丑4月□日	21.6*14.0	定塚町大工 長右衛門→高岡町会所。 前欠のため詳細は不明だが、何事かを迷惑至極と言っている。この長右衛門は、定塚町の侠客・蓮華寺屋伝右衛門(1771~1856)の幼名と思われる。伝右衛門は大工であったため、大長と呼ばれた。 虫損あり。
8	商売許可願状	1	寅10月	16.0*29.0	呉服屋、紅屋等の商売許可願。
9	屋敷売券願状 (前欠)	1	卯9月	24.2*31.7	継紙(継目が剥がれて2枚になっている)。 飴屋六右衛門→高岡町会所。 前欠のため詳細は不明だが、今年家を建てないと役所の命令に背くことになるため、売券を許可してほしいという内容。
10	金銭取替覚	1	卯10月11日	11.4*24.0	二日市屋小左衛門→飴屋六右衛門。 金額と内訳が記されている。
11	関三河守様振替銀につき 書状 (案)	1	卯11月24日	24.1*10.7	源平板屋町々頭 小左衛門・忠右衛門→飴屋六右衛門。50厘。
12	関三河守様振替銀受取状	1	卯11月24日	24.3*15.3	源平板屋町々頭 小左衛門・忠右衛門→飴屋六右衛門。50匁。
13	割符銀請取につき書状 (案)	1	卯11月	24.0*11.8	役人→定塚町町頭中。 本紙がないため詳細は不明。
14	取続願状 (前欠)	1	辰8月	24.0*9.7	飴屋六右衛門→町会所。 前欠のため詳細不明。

No.	資料名称	点数	年代	寸法 (縦*横, cm)	備考
15	飴屋次郎右衛門病死につき倅松十郎の後見人承諾願状 (控)	1	辰9月	24. 0*35. 2	飴屋次郎右衛門母→町会所。 飴屋次郎右衛門が病死したため、相談の上倅の松十郎に相続させることにした。しかし松十郎はまだ3歳なので、横田町 佐ヶ野屋伝右衛門・金屋町 釜屋久右衛門・中田村 久兵衛の3人に後見を頼みたい旨の承諾を願っている。
16	飴屋次郎右衛門病死につき実子松次郎の後見人承認願状	1	辰10月	23. 2*25. 6	飴屋次郎右衛門母 そよ・同人妻 とわ→町会所。 飴屋次郎右衛門が病死し、実子松次郎が跡を継ぐことになった。しかし松次郎はまだ3歳なので、当分の間は一門の中の横田町 佐ヶ野屋伝右衛門・金屋町 釜屋久右衛門・中田村 久兵衛の3人を後見とする事の承認願。
17	上申状 (前欠)	1	辰10月	16. 2*20. 4	竹村屋平兵衛→町年寄衆中。 前欠のため詳細は不明だが、飴屋次郎右衛門家の相続についての内容と思われる。
18	和順申渡状 (前欠)	1	辰11月14日	15. 9*60. 9	継紙 (継目が剥がれて2枚になっている)。 高岡町会所→町年寄。 蓮花寺の三右衛門と飴屋六右衛門が不和のため、和順を申し渡している。飴屋次郎右衛門家の入婿の件の関連文書と思われる。
19	飴屋次郎右衛門死去につき跡目相続願状	1	(近世) 11月	23. 2*33. 8	飴屋甚左衛門→会所。
20	飴屋次郎右衛門家相続申渡状	1	辰12月26日	15. 6*35. 6	高岡町会所→町年寄共。 飴屋次郎右衛門家の相続について申し渡しており、取り計らない場合は処罰するという内容。
21	飴屋次郎右衛門家相続につき長之助へ仰渡方願状 (前欠)	1	辰12月	24. 0*22. 5	飴屋六右衛門・佐ヶ野屋伝右衛門・釜屋久右衛門・飴屋吉郎左衛門・釜屋久左衛門・市姫屋弥次兵衛→町会所。 町会所に、長之助を納得させてほしいと願っている。
22	定塚屋飴屋入婿及び後見人につき書状 (案)	1	(近世)	15. 6*28. 0	飴屋次郎右衛門が死去した後の、入婿や後見人について書かれている。
23	飴屋次郎右衛門方後家入婿の件につき蓮花寺屋長之助へ返答するよう仰渡願状 (後欠)	1	(近世)	24. 0*34. 6	飴屋次郎右衛門が病死したので、妻とわに入婿を貰う請けたいが、三右衛門が反対している。三右衛門の倅長之助に口上書を差し上げたが返答がないため、返答するよう言ってほしいという旨の願書。
24	松木村市右衛門次男貰請につき書状 (前後欠)	1	(近世)	24. 0*106. 7	継紙 (継目が剥がれて3枚になっている)。 飴屋次郎右衛門の名跡を継がせるために、松木村市右衛門次男を貰い請けたいが、蓮花寺屋三右衛門親子が承知していないといった内容が書かれている。また、貰請に関わる周辺の人々の動きが書かれている。
25	飴屋次郎右衛門家相続につき書状案 (前欠)	1	(近世)	24. 0*35. 4	飴屋次郎右衛門家の相続について、三右衛門1人が差し構えるといった内容が書かれている。右上に「二」と墨書あり。
26	飴屋後見人の儀につき書状	1	(近世)	14. 6*38. 0	蓮花寺屋三右衛門は、飴屋の後見人であった。しかし、故飴屋次郎右衛門の後家に入婿を迎えさせることに反対したため、次郎右衛門の母は三右衛門を後見人から除いたが、当面の間は加わることや、入婿について書かれている。

No.	資料名称	点数	年代	寸法 (縦*横, cm)	備考
27	飴屋次郎右衛門家後家入につき書状	1	(近世)	24.4*104.7	飴屋次郎右衛門が亡くなり、残された妻に入婿を進めているが、内容から話はまとまらなかったと思われる。
28	町役指除願状案(後欠)	1	巳11月	24.4*29.0	飴屋六右衛門→。定塚町の町頭を勤めているが、自身の商売が疎かになっていることと、町役の実情を理由に退きたいと願い出ている。
29	書籍見積につき書状(前欠)	1	西3月13日	15.7*54.7	継紙(継目が剥がれて2枚になっている)。塩屋直助→田川才助。
30	銭借用証文	1	戌12月5日	24.3*19.7	小林村 半右衛門→あめや 六右衛門。14貫文。小林村は現射水市小林か。
31	年始挨拶状	1	正月11日	14.6*64.7	才助→飴六。
32	招待状(後欠)	1	5月晦日	15.4*19.8	今日か明日、どちらかの日に来るよう招待しており、返事は書状を届けた人にしてほしいと書かれている。
33	先日の祭礼につき書状	1	9月23日	15.2*54.4	頼成村斎藤口(興カ)平→高岡飴屋六右衛門。
34	依頼状(断簡)	1	10月27日	16.2*19.0	詳細は不明だが、何事かについての調査依頼を行っている。
35	頼母子手形につき書状	1		22.8*31.6	蓮華寺屋三右衛門と飴屋次郎右衛門の間で起きた頼母子の経緯が書かれている。
36	定塚町飴屋六右衛門宛包紙	1		22.4*7.8	朱印「引合」あり。包紙と思われる。
37	飴屋六右衛門宛書簡(断簡)	1		15.4*14.2	
38	屋敷売買覚書案(後欠)	1		22.5*39.6	継紙(継目が剥がれて2枚になっている)。三番町菱屋四郎右衛門、通町長慶寺屋与三吉に売る跡屋敷の売券を出してほしい旨などが書かれている。
39	七昼夜及び私娘と中曽根村三右衛門方との縁談につき書状案(前後欠)	1		15.0*39.1	在家(地域)での報恩講と、中曽根村三右衛門との縁談の経緯が書かれている。
40	連判書上(前欠)	1		23.0*18.6	浄土寺村肝煎 源三郎等11名以上→。浄土寺村は現射水市浄土寺か。前欠のため詳細は不明。
41	竹田五郎左迷惑につき書上(後欠)	1		16.0*16.0	竹田五郎左が仕組んだことによって起きた出来事が書かれていると思われる。
42	役銀割符及び横町屋の障子盗取につき始末方願書	1		15.1*198.3	継紙(継目が剥がれて6枚になっている)。→与左衛門。役銀割符と障子盗取の経緯などが書かれ、始末方を願い出ている。
43	小判通用定書(断簡)	1		15.5*38.2	小判の出入りに関する取り決め。「養目／御算用場奉行江」などと書かれている。
44	虱吟味役所書状(前欠)	1		16.9*10.6	虱吟味役所 奉行水銀→虱ひも取次并ニ小売中。虱紐は、江戸芝金杉通三丁目の鍋屋源兵衛や日本橋小伝馬町幸手屋(さってや)茂兵衛が発売した虱避けの紐。布の紐に薬を塗り、腹の辺りに結んだ。

No.	資料名称	点数	年代	寸法 (縦*横, cm)	備考
45	道敷に関する定書	1		23.9*14.4	道敷に関する取り決めが書かれている。後欠あるいは断簡と思われる。
46	災害被害状況書上（前後欠）	1		14.8*37.0	地名や家屋の被害件数などが書かれている。破れあり。
47	売渡願状（後欠）	1		24.2*8.5	後欠のため詳細は不明だが、土地あるいは屋敷家の売買に関することと思われる。
48	金銭貸渡、売券等覚書	1		23.8*34.4	
49	借用につき書状	1		15.2*36.6	詳細不明。
50	引越書上（前欠）	1		15.3*38.6	破れあり。
51	人物書上	1		15.6*14.2	人物名や簡単な略歴のような記述がある。
52	数々の所行、言語道断につき書状（断簡）	1		16.8*21.6	前後欠のため詳細は不明だが、所行（悪事）について書かれている。
53	祝儀礼状（後欠）	1		14.8*25.6	
54	礼状（前欠）	1		15.0*26.2	前欠のため詳細不明。
55	案内状（前欠）	1		24.4*8.2	前欠のため詳細不明。
56	宴出来事書上（断簡）	1		15.0*41.5	食器や食物などの名称が書かれ、宴と思われる場の出来事が書かれている。
57	茶に関する書上（前欠）	1		15.1*20.6	茶に関することが書かれていると思われるが、前欠のため詳細は不明。
58	書籍購入書上（断簡）	1		15.4*39.5	書籍の題名、冊数、金額などが書き上げられている。中江藤樹著『翁問答』、毛利貞高著『年中行事要言』などの書籍名あり。
59	書籍金額書上（後欠）	1		15.4*28.2	書籍名、冊数、金額が書かれている。『但来回答』写本などの書籍名がある。
60	石川県下越中国新川郡第三大区四小区嶋尻村絵図	1	明治9～16年 (1876～83)頃	26.0*48.4	絵図内には字名などが書かれ、中央上部に方角がある。裏面朱書「片貝谷／島足ノ総目」。 資料の年代は、新川郡が石川県下であった期間によるもの。島尻村は明治22年に下新川郡片貝谷村の大字となり、昭和27年から魚津市島尻となっている。 元は一紙であったが、中央で破れて2枚になっている。
61	御旧跡二十四輩巡拝記	2	①安永10～天明2年(1781～82) ②天明2年(1782)	①25.4*18.4 ②30.0*22.0	堅帳（①44丁、②37丁）。 ①②表紙墨書「越中射水郡小林村称念寺弟子 連華寺村 教西」。 ②裏表紙墨書「越中射水郡／高岡定塚町／□屋／□□衛門（花押）」。 二十四輩は浄土真宗の開祖親鸞の高弟24人のことで、古くからその旧跡巡りが行われていた。本資料には、各寺に巡拝した証として僧侶の署名、印などが記されている。
62	蓮如上人御旧跡巡拝署名（断簡）	1		23.4*19.0	

No.	資料名称	点数	年代	寸法 (縦*横, cm)	備考
63	寺名書上	1	文化10年 (1813)5月14日	21.2*29.2	綴外れか。 金沢玉泉寺、宿寺 博労町極楽寺、古国府勝興寺、宿寺 教恩寺と書かれている。
64	御遠忌志披露につき御印状	1	(近世) 西3月 23日	17.4*23.7	飼田大膳・下間民部卿→杉本屋四右衛門。 金七朱。飼田と下間は真宗大谷派の家臣。
65	法名書上	1	江戸末～明治初期	21.1*13.9	5名の法名、年月日が書かれている。
66	護持会世話係依頼状	1	明治21年 (1888)6月15日	18.0*24.6	本願寺護持会→澤田次兵衛。
67	相続講金進納につき五等 賞品授与状	1	明治23年 (1890)11月8日	21.6*28.0	大谷派本山寺務所→越中法第20771号 射水郡高岡定塚町 打出六平。進納金2円。
68	大乘寺初七日法事献立書上 (後欠)	1		15.0*26.0	大乘寺は不明だが、高岡市東保新に浄土真宗本願寺派の大乘寺がある。
69	二上射水神社由緒書上 (前後欠)	1		14.8*25.2	
70	天神名号	1		本紙： 96.8*27.0 全体： 171.4*34.6 軸長38.8	「南無天満大自在天神」、落款「高辻正二位前大納言猶子玄麓謹書之(花押)」、朱文方印「菅之/孫玄」。 天神名号とは菅原道真の神号。作者は菅原氏嫡流にあたる公家・華族だった高辻家の人物か。 本紙にシミがあり、八双・中廻し・一文字など各部分に破れや剥がれがある。また、掛緒が切れている。
71	題目別人名書上	1		15.0*30.7	「当時まれなる物ハ」、「ひまのない物ハ」と題目があり、それに該当すると思われる人物の名前が書かれている。
72	朝鮮の役並びに関ヶ原の戦い直前についての書上 (前後欠)	1		14.8*57.0	
73	前田斉敬世嗣許可につき 祝儀品書上写(後欠)	1	安永8年(1779) 正月25日	14.8*39.6	前田治脩(はるなが/加賀藩10代藩主)が重教(しげみち/9代藩主)の子斉敬(なりたか)を世嗣としたため、10代将軍徳川家治が贈った祝儀の品の書上。 上使御奏者は浜松城主井上河内守で、西丸からも贈られている。後半に経緯が書かれていたと思われるが、失われている。破れがひどいため取扱注意。
74	不破半蔵組高田善蔵切腹 につき書状(写)	1	(安永9年) 子2 月13日	11.8*23.4	本多安房守・西尾隼人等12人→江守平馬。 安永9年(1780)2月8日、高田善蔵は、隠居・前田重教の「君側の奸」中村万右衛門を脇指で突伏し、万右衛門はその疵がもとで亡くなった。善蔵に切腹を仰せ付け、それまでの段取りを指示している。

計 75 点